

水環境・生物・生態系 (3-D-14-4~3-D-15-3)

本セッションでは、気候変動が植物プランクトンに与える影響に関する報告が1編、また淡水魚の生態および生息環境評価に関する報告が3件あった。

3-D-14-4 は、気候変動が淡水域の植物プランクトン群集に与える影響を、水温、二酸化炭素分圧、紫外線などの要素ごとに文献の知見に基づき考察した。その中でも、脂肪酸含量やその不飽和度などに着目して、淡水生態系を議論している点は興味深い。今後の実験的手法の提案もあり、今後の研究の展開が楽しみである。

3-D-15-1 は、神田川の高戸橋付近における下水処理水の流入が魚類の種多様性を増加させているという知見を、魚類調査とライフサイクルリスクアセスメント(LCRA)による調査結果に基づき報告した。事例研究ではあるが、今後の都市河川の有り方に関して、貴重な知見を提供している。

3-D-15-2 は、オイカワの行動圏をマイクロサテライト遺伝子座の解析に基づく手法により推定することを試みた研究である。既報のプライマーを用いた信頼性の高い貴重なデータを提供していると考えられ、今後はオイカワの行動生態の解明や河川環境管理への応用が期待される。

3-D-15-3 は、元小山川上流における河川再生事業を、魚類のLCRAにより評価した結果を報告した。15種の魚類に適用した結果、対象とした河川再生事業により魚類の種が増加したこと、またLCRAが魚類生息場の評価法として有効であることを示した。本手法と魚類個体の移動との整合性に関して質疑が交わされたが、提案された手法が多くの河川へ適用されることを期待したい。

(東京工業大学・理工 吉村 千洋)